

見附市教育センターだより



〒954-0052
見附市学校町2-7-9

電話/Fax 0258-62-2343

E-mail mrisen@mitsuke-ngt.ed.jp

令和4年10月25日 NO.7

朝陽を浴びる「曼珠沙華」

(10月4日の朝)

子どもと共に「良い授業」をどう創っていくか？

師がく指導者 小林 恵子



今年度、師がくで参観させてもらった中で「良い授業」のエッセンスが豊富な授業を3つ紹介したい。

◇小学校5年英語 課題『私の1日』を伝えよう

曜日、月日、天候、時刻のQ&Aの後、絵カードを貼り get up 等の6種類の表現練習。さらに Missing Game 等で習熟を図る。What time do you get up? I get up at (6:00). 提示。「下線部を変えれば何でも聞けそう！」という児童の声。○教師Q 児童A ○児童Q 教師A ○教師Q 児童A (自分の時刻で)の順に全体練習。最後に、4人グループでインタビュー。答える児童は起立。3人が声をそろえて質問し、答えをメモする活動で盛り上がる。

授業者の声【時刻の練習を増やし、もっとスムーズに話せるようにしたい。】

◇中学校2年社会 課題「産業革命によって人々の生活はどう変化したのか？」

教科書やノート凝視する生徒の姿で始まる。前時の授業の小テスト(画像付き)実施。隣同士で交換し採点。5問正解者の歓声。授業はICTを活用した画像を多用。即、ノートを開いて板書を写す生徒。つぶやきを上手く拾うことで、思考が深まっていく。「社会主義が広まらなかった理由は？」という発問に「給料が一緒だと働かなくなる。」「技術が高まらなければ他の国に勝てない。」の答え。授業後、自主的に教科書を読む生徒の姿。

授業者の声【社会科嫌いの生徒を何とかしたいと思い、工夫をしてきた。】

◇中学校3年数学 課題「いろいろな√の数の乗法・除法を考えよう」

「3分計算」でスタート。答え合わせをしながら「有理化」等の言葉の意味を説明させる。課題提示後「計算の最後は…」と3つのポイントを確認、板書。 $2\sqrt{6} \times 2\sqrt{3}$ の計算で $12\sqrt{2}$ という答えに至るまでの途中式を生徒の発言を聞きながら分かりやすく板書。さらに「 $\sqrt{18}$ にならないやり方はないか」と問うと生徒の教え合い活発化。振り返りシートには、自分なりに気付いたことを記入する生徒多数。

授業者の声【以前は自分が教えなければと思っていた。今は生徒に色々な解き方を考えさせ、紹介させている。】

違う教科の授業から学ぶことは多い。子どもの反応、テスト等の考察、同僚等の助言を熟慮して、自分なりに納得できる授業スタイルを確立してほしい。

巻頭写真に寄せて 「曼殊沙華＝ごんぎつね？」



◇秋の彼岸の時期になると、曼殊沙華(彼岸花)が咲き出す。今年は、夏が高温で、9月に入っても暖かい日が続いていたが、急に肌寒く感じるようになり、秋のない年なのかと思っていた。しかし、秋分の日(彼岸)が近づくと、あちこちで曼殊沙華を見るようになった。この花は、一週間程咲くと枯れてしまう。枯れるというよりは無くなってしまうが正しい表現かも知れない。彼岸を過ぎる頃には、咲いていたことを忘れてしまうほどである。ところが、今秋は気候のせいだろうか場所によって、10月初旬まで咲いていた。巻頭写真は4日の朝、出勤途上で農家に隣接する畑脇で撮ったものである。

◇さて、曼殊沙華を見ると必ず思い出す文学作品がある。新美南吉の『ごんぎつね』である。教育センター(教科書センターも併設)にある国語4年の教科書のすべてに『ごんぎつね』が載っている。それは、学習指導要領解説で「登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること」が、文学的な文章に求められていて、この『ごんぎつね』は、ごんと兵十の気持ちの変化を場面の移り変わり(描かれる情景)とともに、想像することができるためと思われる。

◇『ごんぎつね』は新美南吉の作品であるが、教科書会社毎に挿し絵は異なっており、挿し絵によって、別な作品に感じてしまう。見附市内の小学校で採用している教科書会社は、東京書籍で、『ごんぎつね』の挿し絵の作者は黒井健である。本屋さんや図書館で見る新美南吉の『ごんぎつね』や『手ぶくろを買いに』の絵本も、多くが黒井健のものである。私は黒井健の作品が大好きなのだが、描き方が色鉛筆を用いて、独特の繊細な絵柄の作品にぬくもりを感じるのである。

◇黒井健は、新潟市の生まれで新潟大学教育学部を卒業し、絵本画家になって今年で50年を迎える。この画業50周年を記念した展覧会「黒井健 絵本原画展」が、10月29日(土)から新潟市新津美術館で開催をされる。『ごんぎつね』などの代表作の他、初期の貴重なカットから新作まで展示されるという。ぜひ、黒井健の作品に触れに出かけたいと思っている。

コラム ＝「図面じゃなくて材料に合わせるんですよ」＝

◇十日町市を拠点に、全国で古民家再生を手掛けるドイツ人建築デザイナーのカール・ベンクスさんをご存じですか。1966年に空手留学のために初来日し、日本の木造建築に魅せられて、日独で古民家の再生・移築ビジネスを展開し、1993年に限界集落(十日町市竹所)に自宅となる古民家を購入・再生します。その後自宅だけではなく、限界集落であった竹所地区に古民家を移築するなど、古民家再生を通じた里山の魅力を全国に発信し続けています。この活動が認められ2017年に「ふるさとづくり大賞(内閣総理大臣賞)」を夫人のティーナさんとともに受賞しました。この頃からNHKBSで「カールさんとティーナさんの古民家村だより」が度々放送されています。10月22日夜、最新の「カールさんとティーナさんの古民家村だより—2022春・夏—」がありました。今年で80歳になるカールさんは、この春、竹所に10軒目となる古民家を再生しました。過疎化が蘇った竹所ですが、「なぜ、日本の山里に暮らすのか」を問われたカールさんが「住民がちょっとずつ繋がって大家族のような集落を作りたい」と答えていました。地区総出の道普請や盆踊り・バーベキュー大会等の様子が紹介をされました。◇さて、表題の「図面じゃなくて材料に合わせるんですよ」は、カールさんが古民家を再生させる基本だそうです。百年以上にわたって風雪に耐えてきた梁や柱などをよく診て、その状態に合わせて家づくりをするというのです。これは、何か教育と同じではないかと思うのです。教育は、一人ひとりの個性に応じた指導や支援が大切です。その基は、一人ひとりをよく知ることです。休み時間等を共に過ごし、子どもの目線に立って対話をして欲しいものです。(こ)

4時から特別夢塾

変わりゆく「古典」

第9回は10月11日(火)に、新潟大学附属長岡中学校の伊藤 裕 先生から、見附中学校1年1組で、古典学習の導入「移り行く浦島太郎の物語」の示範授業をやって頂き、その後ミニ講座で、下記の指導を頂いた。



伊藤 裕 先生

1 授業の様子 変わりゆく「古典」・移り行く浦島太郎の物語

(1) ねらい・時代によって享受された古典がどのように変化していったのかを考える活動を通して、古典の多様性について気付くことができる。

(2) 展開 ①本時の見通し T: 浦島太郎の話は、どんな話でしょうか？

→これまでの生活経験から、自分の知っている浦島太郎を確認。

・ Google フォームの事前アンケートのテキストマイニング結果を提示。

②課題を提示 T: 2つの浦島太郎の話を読んでみよう。

・ 浦島太郎の風土記版と御伽草子版を配布。→2つの内容確認。

○ T: 「2つの浦島太郎の話と、自分の知っている浦島太郎の話はどこが違うか考えよう」・個人でワークシートに違いを記入する。

◎ T: 「浦島太郎の話は、なぜこんなに違いがある？」

・個人→班→全体で検討。古典には多様性があることを理解する。



2 ミニ講座

(1) 提案授業について

○教科書教材「移り行く浦島太郎の物語」を起点に古典の多様性を。

・教科書に載っているものが唯一絶対ではない。→竹取物語なども。

・竹取物語・古本系と流布本系→さるきの造・ふじ(富士・不死)の山。

・奥の細道と曾良旅日記→芭蕉の“虚構”の顕在化。

⇒複数のテキストの比較から、古典の多様性をとらえる。

(2) 「読むこと」授業におけるICT活用を考える

○ICT活用に向けて大事なことは、無理せず、ちょっとでもやってみる。

・ICTを活用するとき意識していること→生徒の主体性の喚起と言語活動との関連付け。

・授業のデザインはこれまでどおり。言語活動を豊かにするツールとしてのICT。

・ICTはツール。ICTを使うことは目的ではない！ ・実践「走れメロス」の紹介。



<参加者の声> ・多様性から読む楽しさを感じさせる授業を参観し参考になった。

- ・古典の学習は、小学校は親しみながら、中学校では内容の追求が始まることよく分かった。
- ・主体性の喚起、読みの視点をもって授業をつくるのが、ねらいの設定の仕方だと分かった。
- ・古典が好きなので興味深く参観をした。学習を楽しめる状態にすることが大切だと思った。
- ・比較する読みによって、生徒たちが新しい視点を得ている姿があり、面白かった。
- ・ICT活用も含め、教材のとらえや授業づくり、生徒の思考を大切にしている姿等、多く学んだ。
- ・ICT活用は必要最適な場面で行うに共感。手で書きたいという子がいることにホッとした。

4時から夢塾 「国語科『読むこと』における授業改善」

第10回は10月18日(火)に、新潟大学附属長岡小学校の小潟雄一年生から、葛巻小学校3年2組で、「ふたつの違いを比べながら読もう『どちらが生たまごでしょう』」の示範授業とミニ講座の指導を頂いた。



1 授業の様子

- (1) ねらい 図や写真がどの段落とつながるかを、叙述を基に話し合う 小潟雄一先生
活動を通して各段落のキーワードに着目すると、つながりが詳しく分かることを理解する。
- (2) 展開 T1: 殻を割らないで、ゆでたまごと生たまごを見分けることができるかな?
C: 教材文『どちらが生たまごでしょう』を読み、構造と内容を把握する。
C: 図や写真がそれぞれどの段落とつながるのか考えたいと意欲を高める。
T2: それぞれの段落の言葉と図や写真をつないでみましょう。(個人で→仲間で)

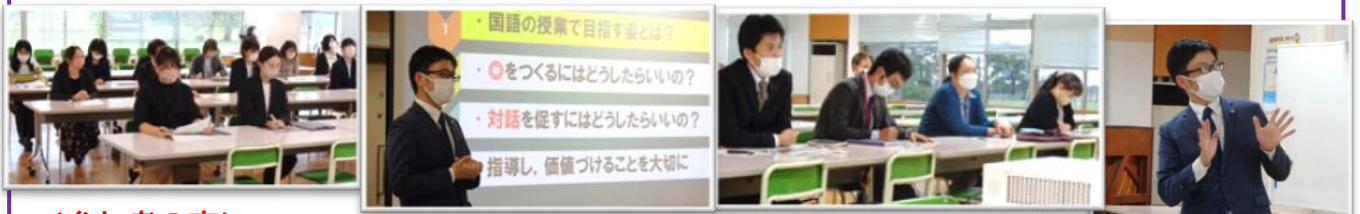


C: 図や写真を選んだ理由について、キーワードに線を引き、自分の考えを整理する。

C: 拡大した教材文を基にして、仲間と話し合う。(評価) 教材文への書き込み、発言等

2 ミニ講座 国語科「読むこと」における授業改善 — 小学校の実践を中心にして —

- (1) 国語の授業で目指す姿とは? ・子どもたちがまなざしを共有しつつ教材と深く対話し、のめり込んでいく(没入していく)学びが実現できているか。
- (2) 学習問題をつくるにはどうしたらいいの?
・授業者と学習者で、ズレを生かして学習問題を紡ぎ出す。
- (3) 対話を促すにはどうしたらいいの?
・書いてあることを手掛かりにして思考する。言葉に着目する。
・見方・考え方を働かせながら問題の解決に向かう。→代案を示すこと。練り上げの風土。
- (4) 指導し、価値づけることを大切に ・聞く人に働きかける話し方ができる子を育てたい。
- (5) 明日からの授業で 目指す姿をイメージしよう!
・学習問題 → 対話(特に解決活動) → まとめ 授業者と学習者でまとめを紡ぎ出す。



<参加者の声>

- ・様々な働きかけや小道具のマイク等、内容に入る前に興味を持たせていた。参考にしたい。
- ・ほめ言葉が数え切れないほどあった。これで子どもの心を掴んでいた。私もほめなくては。
- ・子どもたちは写真とのつながりを見つけようと叙述を入念に読み、理解しようとしていた。
- ・説明文の進め方が分からずにいた。ズレから作る学習問題ができるように頑張りたい。
- ・解けそうな難易度で、解いた後に残るモヤモヤ感が対話(話し合い)の必然性を生んでいた。

10月

科学教育部



《今月の1枚》
アキアカネ
見附市市野坪にて

【夏休み作品展】

9月24日（土）、25日（日）に、ネーブルみつけで、夏休み作品展が行われました。今年も、工夫やアイデアを凝らした作品をたくさん見ることができました。自分なりにこだわりを持って、ものを作ることは楽しいことです。楽しみながら何かに取り組むことは、大きな力を生み出します。学校での授業をきっかけにして家庭でも、楽しみながらものを作る児童・生徒が増えることを願っています。



【科学研究発表会】

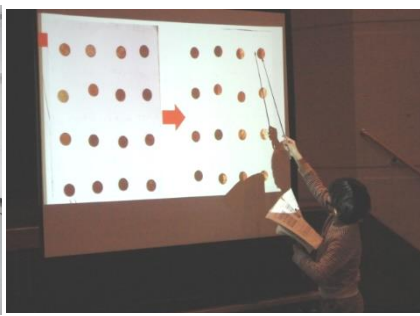
10月6日（木）に、中央公民館で第58回見附市児童・生徒科学研究発表会を開催することができました。

児童・生徒は、普段の授業をもとに、生活の中から疑問を見つけ、科学研究に取り組みました。科学への探究心の高まりを感じることができました。繰り返し実験を行ったり、新たな疑問に対して実験を行ったりする研究も多かったです。先生方のご指導のおかげで、研究の質、発表の質が年々上がっています。ありがとうございます。

発表練習を重ね、研究成果をわかりやすく発表していました。疑問に思ったことに対して、積極的に質問も挙がり、有意義な発表会になりました。



小2部会（3・4年生）



小1部会（5・6年生）



中学校部会

科学の公園

イチョウについて

名木野小学校 尾身 直樹

名木野小学校体育館と総合体育館の間は、見附特別支援学校への入り口で、イチョウ並木になっています。先日、体育館の窓閉めをしていたら、銀杏の実が随分育ってきていることに気が付きました。そこで、今回はイチョウについてお話ししたいと思います。

(1) イチョウに性別あり

一般的に、植物は一株にオス・メス両方の特徴をもっています。ところが、イチョウは、オスの木とメスの木は別株になっていて、オスの木には雄花、メスの木には雌花しか咲きません。もちろん、銀杏はメスの木にしかできません。銀杏の収穫を期待するのならば、オス・メス両方の木を近くに植える必要があります。名木野小脇のイチョウ並木も、オス・メス両方が植えられています。銀杏は独特のにおいがするため、街路樹は、オスの木を植えることが多いようです。



(2) 植物なのに

イチョウは、植物なのに精子をつくります。イチョウの精子は、繊毛を使って卵子のもとまで泳いでいきます。植物細胞なのに繊毛を使って運動する！まるで動物のようで、初めて知ったときには、とても驚いたことを覚えています。これだけ聞くと、動物に似ていて、進化した植物のように感じますが、種子植物としては、原始的なのだそうです。



(3) 銀杏には毒性が

銀杏はおいしいですね。ところで、「銀杏は、年の数以上食べてはいけない」という言い伝えをご存知でしょうか。実は銀杏には毒性があり、一度に多量に摂取すると、中毒のおそれがあります。言い伝えは、生活の知恵だったのですね。

(4) イチョウの仲間は1種類

イチョウは私たちに取って身近な植物ですが、実は絶滅危惧種だそうです。イチョウの仲間は4億年前にあらわれ、恐竜が栄えた時代には、既にイチョウも繁茂していたそうです。その後、恐竜とともにイチョウも衰退し、今ではイチョウの仲間に残っているのは1種類のみ、そのほとんどが栽培されているとのこと。現在では、人の手を借りなければ、生きていけない植物となっています。

名木野小脇のイチョウ並木には、銀杏がたわわに実っていて、まもなく収穫できそうです。銀杏拾いに来られてはいかがでしょうか。

参考：<https://www.kikumasamune.shop/blog/?p=2385> http://blog.q-q.jp/200706/article_38.html
https://mycode.jp/topics/diseases/symptom/ginkgo_natural_products.html#

*当センター科学教育部兼任所員の尾身先生からご寄稿いただきました。